

半導体スパッタターゲット

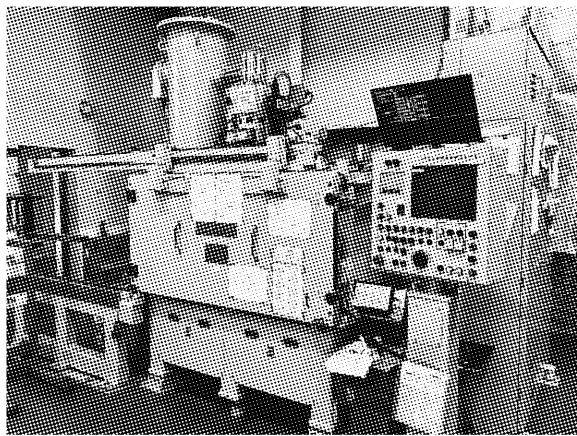
フジメタルが2工場

能力1.4倍

【川崎】フジメタル

(川崎市川崎区、藤井政敏社長)は、半導体用スパッタリングターゲットの加工能力を増強する。川崎市内に新たに2拠点を確保して溶接、切削の設備を増設。2024年初には全社合計の月産能力を現在比約1.4倍の3500枚に引き上げる。2拠点を合わせた総投資額は約14億円。国内外で24年以降に期待される半導体向けの需要増に 대응する。

2拠点のうち一つは取得した既存工場を改修して使う。敷地面積は約1320平方メートル。平屋建て2棟を合わせた延べ床面積は736平方メートル。日ノ出工場(同川崎区)から電子ビーム溶接機4台を移設するほか1台購入



フジメタルが日ノ出工場から増設拠点に移設する電子ビーム溶接機

し、溶接を集約する。数値制御(NC)旋盤4台、ウオータージェットカッター2台も導入し、24年2月に稼働予定。日ノ出工場には

タンクステンの研磨加工機を今後導入する。

もう一つは賃貸工場。敷地面積約830平方メートル、延べ床面積約500平方メートル。仕上げに使う複合旋盤などをそろえ24年1月に稼働予定。同社の国内工場は計9拠点が増える。

社員は現在、110人。精密切削や搬送の自動化で24時間稼働可能にするなど効率化を進めており、工場増設後も再配置によって4人増に抑える。

総投資額約14億円のうち、6億円は日本政策金融公庫横浜支店と川崎信用金庫から協調

融資で支援を受けた。スパッタリングターゲットは半導体ウエハーの成膜に使う材料。フジメタルはチタン、コバルトなどあらゆる素材を対象に熱処理から最終仕上げまで一手に担う。

半導体は電気自動車(EV)、生成人工知能(AI)など幅広い分野で需要増が期待されている。